

レジメンcode:	C22-15	備考
適応がん種:	胆道癌	
レジメン名:	Pembrolizumab+CDDP+GEM	
間隔:	3週間	

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	キイトルーダ	200	mg/body	点滴(1時間)	d1
CDDP	シスプラチニ(プリプラチニ)	25	mg/m <sup>2</sup>	点滴(1時間)	d1、8
GEM	ゲムシタビン	1000	mg/m <sup>2</sup>	点滴(30分)	d1、8

\*最大8コース実施後、【C22-16】Pembrolizumab+GEM(中止事由に該当しない限り、期限の上限なし)へ移行する。

★尿量確保に注意し、必要に応じて利尿剤(フロセミド等)を投与する。

#### day1【ケモセーフ使用】

1) 生食	50ml	1 本	ルート確保
2) キイトルーダ	200 mg/body		
生食	50ml	1 本	
	主管①	点滴	30分 インラインフィルター必須
3) 生食	50ml	1 本	
	主管②	点滴	15分
4) 硫酸Mg補正液	10 ml		
ラクテック	500ml	1 袋	
	主管③	点滴	1時間
5) パロノセトロン	0.75mg	1 V	
デキサート	6.6mg	1 V	
デキサート	3.3mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管④	点滴	15 分
6) シスプラチニ(プリプラチニ)	25 mg/m <sup>2</sup>	【ケモセーフ使用】	
生食	250ml	1 本	
	主管⑤	点滴	1時間
7) ラクテック	500ml	1 袋	
	主管⑥	点滴	1時間
8) ゲムシタビン	1000 mg/m <sup>2</sup>	【ケモセーフ使用】	
生食	100ml	1 本	
	主管⑦	点滴	30 分
9) ラクテック	500ml	1 袋	
	主管⑧	点滴	1時間

〈所要時間 約6時間30分〉

### day8【ケモセーフ使用】

1) 硫酸Mg補正液	10 ml		
ラクテック	500ml	1 袋	
	主管①	点滴	1時間
2) パロノセトロン	0.75mg	1 V	
デキサート	6.6mg	1 V	
デキサート	3.3mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管②	点滴	15 分
3) シスプラチニン(ブリプラチニン)	25 mg/m <sup>2</sup>	【ケモセーフ使用】	
生食	250ml	1 本	
	主管③	点滴	1時間
4) ラクテック	500ml	1 袋	
	主管④	点滴	1時間
5) ゲムシタビン	1000 mg/m <sup>2</sup>	【ケモセーフ使用】	
生食	100ml	1 本	
	主管⑤	点滴	30 分
6) ラクテック	500ml	1 袋	
	主管⑥	点滴	1時間

〈所要時間 約5時間30分〉

### 【文献】

国際共同第Ⅲ相試験【KEYNOTE-966試験 Lancet 2023;401:1853–65 (PMID:37075781)

### 【適応】

(臨床試験)

\*対象: 化学療法歴のない治癒切除不能な胆道癌患者(肝内/肝外胆管癌及び胆嚢癌、ただし十二指腸乳頭部癌は除く)

\*CPS発現の有無は問わない

### 【キイトルーダ】

\*甲状腺機能障害、下垂体機能障害及び副腎障害があらわれる事があるため、投与開始前及び投与期間中は定期的に内分泌機能検査を実施すること。ホルモン検査(TSH、T4、ACTH、コルチゾール)は、1ヶ月に1回の実施を推奨。

◎検査セット登録あり: 場所 カルテ→(検体)→(特殊セット)→(免疫療法初回)(免疫療法2回目~)

\*インラインフィルター(0.2~5 μm)を使用する。

\*調製時、又は希釈後に振盪により微粒子が生成される可能性があるため、バイアルは振盪せず、激しく攪拌しない。

\*生食又は5%ブドウ糖に溶解する。同一点滴ラインを使用して他の薬剤を併用同時投与しない。

\*希釈後、25°C以下で6時間以内または2~8°Cで合計96時間以内に使用する。

\*有害事象(肺、肝、内分泌障害、皮膚、胃腸、腎、神経関連など)対処アルゴリズムを参照する。

\*臨床試験での検査スケジュール、投与延期または休薬基準を参照する。